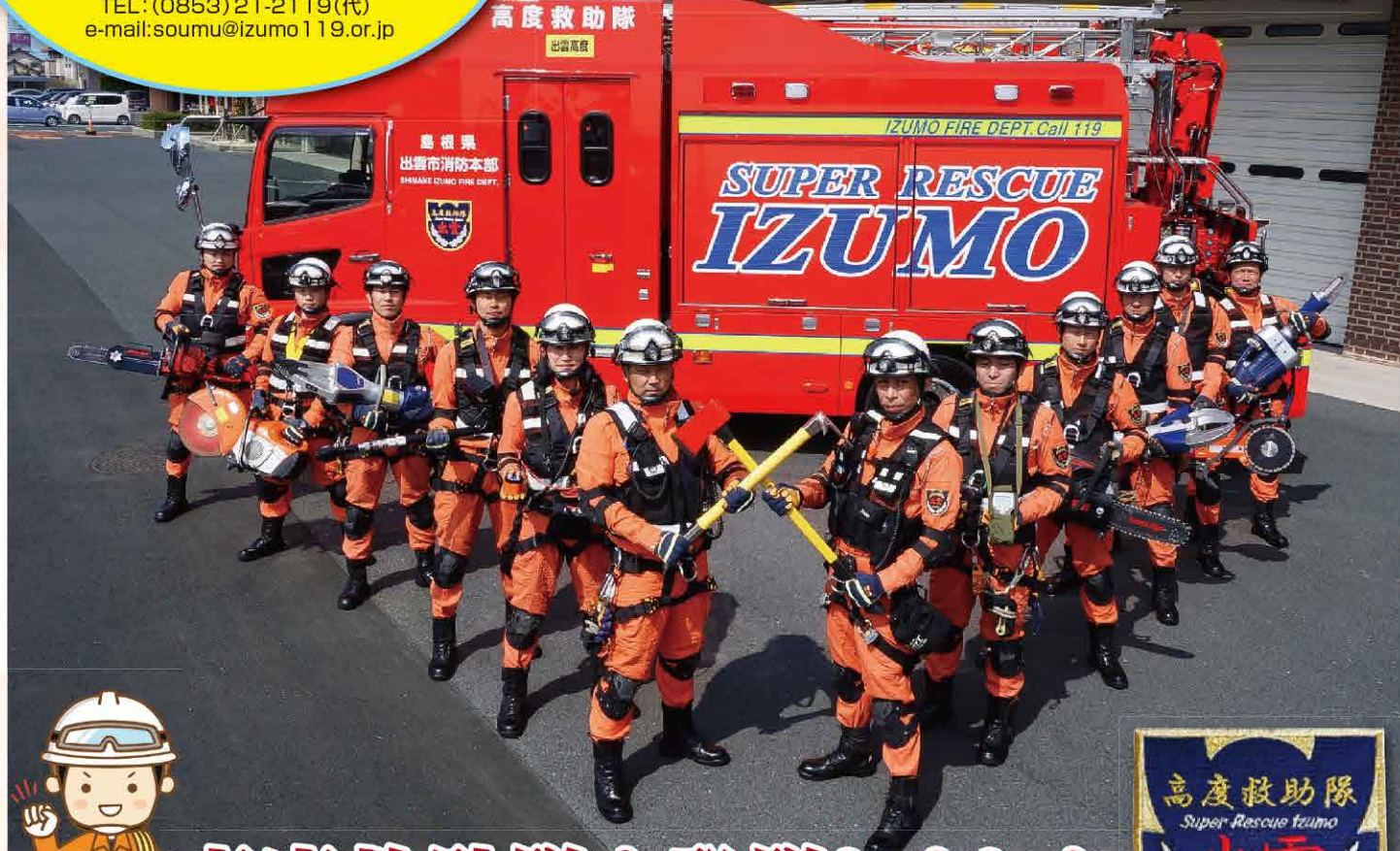


平成30年度全国消防統一防火標語
忘れてない? サイフにスマホに 火の確認



高度救助隊を発隊しました



平成30年4月5日、出雲市消防本部に高度救助隊が発隊しました。高度救助隊とは、地震などの大規模な災害や化学災害などのあらゆる災害に対応するための救助資機材を積載した救助工作車を備え、人命の救助に関する専門的かつ高度な教育を受けた隊員で編成した救助隊です。

発隊式では、長岡秀人出雲市長に救助隊長が決意表明を行い、高度救助隊員に市長からワッペンが授与されました。高度救助隊は、出雲市民の安全・安心を守るため全力で任務を遂行します！

出雲市消防本部 高度救助隊概要
 出雲消防署本署 隊員数：12名



車両諸元

車両総重量/11,540t 排気量/5,120cc
 全長7,960mm×全幅2,340mm×全高3,320mm

【特徴】

走破性の高い4輪駆動方式を採用し、前後にウインチ、上部にクレーンと高照度の照明を装備しています。県内初のバス型キャビンで、現場到着までの車内で速やかな活動準備が行えるようにしました。

夏休み消防一身体験学習を 開催しました

平成30年8月3日、「第33回夏休み消防一身体験学習」を開催しました。当日は大変な猛暑となりましたが、市内小学生79名もの参加があり、消防活動の体験を通し防火・防災について学習しました。昼食ではアルファード食品株式会社様のご協賛により、実際に備蓄食品を食べる体験も実施しています。暑さを吹き飛ばす参加児童の元気に、消防職員が圧倒されるばかりであり、今回の活動を通し地域を牽引する防災リーダーに成長してくれるものと期待します。



地震体験車

平成30年7月 西日本豪雨災害 広島県へ緊急消防援助隊を 派遣しました

緊急消防援助隊は、大規模災害が発生した際、被災地の消防力のみでは対応困難な災害に対して、都道府県の枠を超えて災害活動を行う部隊のことで、

広島県呉市で発生した豪雨災害に、7月7日から緊急消防援助隊島根県隊として出雲市消防本部からは総勢47名の隊員が出動し、9日間に行わたる活動を実施しました。

近年、大規模な自然災害が頻発しています。防災用品や非常食の備蓄状況、避難所の確認などを日頃から行い、防災への意識を高め



旧大社支所を使用した 訓練を実施しました

旧大社支所が解体されるのに合わせ、救助技術向上を目的に7月から9月の間、旧大社支所を使用し訓練を実施しました。低所から要救助者を救出する訓練や高所からロープを使用し降下する訓練、また倒壊建物内に閉じ込められた要救助者の救出を想定した壁の破壊訓練などを実施しました。また、実際の現場での時間短縮を図れるよう、実施した訓練の検討を行いその都度活動の改善に努めました。



代表 (電話 21-2119) (FAX 21-8241)

- お尋ねは
- 消防総務課 (電話 21-6920)
 - 予防課 (電話 21-6921)
 - 警防課 (電話 21-6923)
 - 指令課 (電話 21-6924)
 - 出雲消防署 (電話 21-6926)
 - 佐田分署 (電話 84-0915)
 - 出雲西消防署 (電話 43-8119)
 - 多伎分署 (電話 86-2149)
 - 平田消防署 (電話 63-5519)
 - 大社消防署 (電話 53-2373)
 - 斐川消防署 (電話 72-0800)

災害案内 (電話 23-0119) ホームページアドレス <http://www.izumo119.or.jp>

24時間・365日対応 多言語コールセンターサービス

対応言語:ポルトガル語・英語・韓国語・中国語



出雲市消防本部では、同時通訳を介して災害受信を行う「多言語コールセンターサービス」を導入しています。このサービスは、救急現場などからも活用することができます。

平成28年5月の利用開始以降、平成30年6月末までの利用件数は40件（相談や間違いも含む）です。

通訳を依頼した件数は、ポルトガル語31件、英語7件、中国語2件です。

このサービスにより、日本語が通じない場合でも、災害対応の正確性・迅速性が向上しました。

詳細は、出雲市消防本部ホームページをご覧ください。

これであなたも消火器マスター!!

●狙うべきは炎ではなく、燃えている物!

→消火の際、大きな炎に目を奪われてしまい、燃えている物にうまく掛かっていないことが多いです。燃えている物を狙うことが、消火への早道です。

●油火災は慎重に…

→天ぷら油の火災では、消火器の噴射によって油を飛び散らせ、火災が拡大する可能性もあります。
①離れた位置から噴射し徐々に近づく(火傷防止にも有効)
②後ろの壁に噴射することで薬剤の跳ね返りを利用する、などのテクニックを使うと安全に消火できます。

●消火器を使用するあなたは安全?

→狭い空間で消火器を使用すると、煙と消火薬剤が噴射の力で拡散し、吸い込んでしまったり、避難口が見えなくなる可能性があります。必ず逃げ道を確認し、可能であれば部屋の外から使用しましょう。

●火が消えた…それで安心ですか?

→消火が成功したように思えても、火種が残っていれば再燃の可能性があります。動かせるものならば裏側も確認!特に綿類の火種は確認が難しいため、布団や座布団は水に浸けましょう。

秋季火災予防運動 期間:11月9日~11月15日 予防課 21-6921(直通)



緊急自動車Q&A



Q車を運転中に緊急自動車が接近してきたら、どうすればいいですか?

A交差点を避け道路の左側に寄って一時停止し、緊急自動車に道を譲ってください。このときハザードランプを使用いただくと、周囲の車両への合図となり事故防止につながります。また、見通しが良く道路幅の広い場所で停車していただくことで、緊急車両はスムーズな追い抜きができます。

Q大きな道路なのに、救急車がゆっくり走っているのを見かけました。どうして急いで病院に行かないのですか?

A傷病者の状態悪化を防ぐためや、救急車内での処置のため、スピードを落として大きな揺れを防ぐ運転をすることがあります。また緊急走行中であっても、赤信号の交差点への進入時などは安全確認のため徐行や一時停止することもあります。

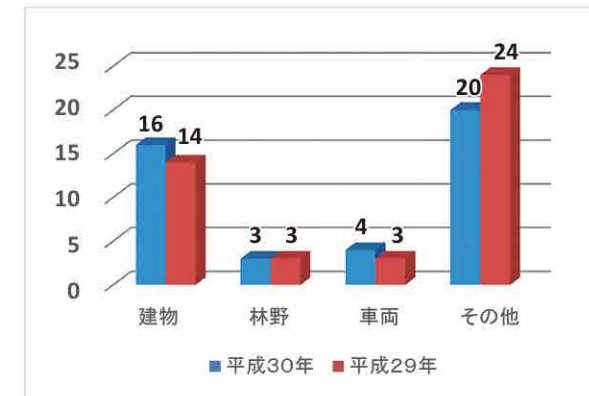
Q家族が救急車で病院まで搬送されるとき、自家用車で救急車に追走してもいいですか?

A緊急自動車には、反対車線へのはみ出しや赤信号の際も交差点への進入などが認められていますが、一般車両で行えば大変危険な運転であり、交通違反です。緊急自動車の後を追いかけるような運転は決して行わないでください。

※安全・安心な町づくりのため、皆様のご協力をよろしくお願いします。

平成30年 火災・救急統計 (1月~8月)

■火災件数43件 (前年比1件減)



平成30年8月末までの火災件数は43件で、前年の44件に比べ1件の減少となりました。

種別毎にみると、「建物火災」は増加しています。枯草などが燃えた「その他火災」は減少していますが、依然として一番多く発生しています。

■救急件数4,738件 (前年比174件増)



平成30年8月末までの救急件数は4,738件で、前年の4,564件に比べ174件の増加となりました。

種別毎にみると、「急病」が3,221件で全体の約68%を占め、次いでけがや骨折などの「一般負傷」が637件、「交通事故」が345件となっています。また、熱中症の件数は、108件となっています。

1日あたりの平均救急件数は19件となります。

水難救済会出雲救難所 海難事故想定訓練を実施しました(報告)

水難救済会出雲救難所では、出雲市内海岸部での海難事故発生に備え、救難所員の救助体制の強化と救助活動における救助技術の向上のため、今年も各会場において消防署と合同で海難事故想定訓練が行われました。

7月には十六島漁港を会場に平田支所との合同訓練を、8月には大社漁港を会場に大社・日御碕・鶴鷺の3支所との合同訓練が実施され、9月には小田西漁港で多伎支所との合同訓練を実施しています。この訓練では、火災船への放水訓練、浸水船乗組員の救出訓練、救命索発射銃を使用する落水者救助訓練等を行い、このうち大社漁港で実施した訓練には、海上保安庁美保航空基地のヘリコプターと境海上保安部の巡視艇が参加し、各関係機関との連携を深めることができました。また、この他に船舶火災を想定した消火訓練、救助船による落水者の救出訓練、心肺蘇生法訓練等も実施されています。

今後も海難事故想定訓練の目的とする官民連携による救助技術の向上、救助体制の確立及び海難事故防止の高揚を図るため、このような訓練が継続的に行われる予定です。

昨年度の出場状況 救助出場 6件 : 延46名 18隻

